

津屋崎千軒を核とした移住・交流ビジネス化事業

施策のポイント

「よそ者、若者、のぼせ者」が福津市津屋崎漁港付近の古い町並みが残る地域（津屋崎千軒）に移り住み、新しい視点で人と人、土地と人をつなぎながら福津市の魅力を広め、移住希望者の移住実現を支援する仕組みをビジネス化する施策である。

自治体情報

福岡県 福津市

人口 / 55,932人

標準財政規模 / 11,027,000千円

担当課 総合政策部企画政策課

電話番号 直通0940-43-8115 代表0940-42-1111 内線2222

実施主体 特定非営利活動法人地域交流センター

関連ホームページ <http://1000gen.com/>

事業期間 平成21年度から平成22年度まで

参考とした施策 熊本県小国町「九州ツーリズム大学」、島根県海士町「プロガーの雇用」

関係施策分類 ② ④

施策の概要

1 取組に至る背景・目的

本市では、漁港や風情のある町並みなど、歴史文化を色濃く残す津屋崎千軒一帯において、魅力と賑わいを創出させるために地域振興や活性化を図ってきた。こうした中で特に課題となっている空き家、空き地等の地域資源を活用するには、所有者に加え市民意識の向上と価値の共有などを広げる必要がある。

そこで、津屋崎千軒活性化の核となる取組みについては民間主体としての移行を視野に入れ、実現可能性を高めるためには民間事業者の自由な発想や企画を取り入れてビジネス化のノウハウを培い、確立後に民間主体に移行することを目指している。

2 取り組みの具体的内容

(1) 津屋崎の美しさや住みやすさをプロモーション

HP やブログを通してスタッフの日常の出来事やこの町に暮らすために必要な情報を暮らしている人の目線で伝える。

(2) 移住者が実際に暮らせるための仕組みづくり

空き家の持ち主、地域の方、移住したい方、不動産屋の仲介役となり、プチ移住体験（数日～数週間）などを通して地域不動産の潤滑油の役割を担う。

(3) エデュケーショナルツーリズムの実践

「交流」のコンテンツとして、「エデュケーショナルツーリズム^{*}」を掲げて活動する。観光とは違う視点で「学ぶために来る」「学びあって帰る」ことを実践する。具体的にはこれから先20年を見据え、現状の延長線上とは違う新しい視点のまちづくりの発想を、共に学びあう学校を開講し、全国の地域づくりへの波及を目指す。

※「学ぶ」エデュケーションと「旅行、レクリエーション」ツーリズムとを組み合わせた造語

3 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

(1) UJI ターン者を数名（数よりも質を重視）生み出し、空き屋への商店・工房等の入居、宿泊業の創出など、その人の仕事自体がその地域に生まれたビジネスになり、その人をめがけて来る人の移住連鎖のきっかけをつくる

(2) 空き家を管理する地域不動産の立ち上げ

(3) エデュケーショナルツーリズムによる市の知名度向上とビジネス化



4 現在までの実績・成果

平成 21 年度は 9 名の移住希望者が登録されたほか、空き家の賃貸に向け交渉した物件のうち 2 件で協議を開始した。また、エデュケーショナルツーリズムにより学校を 1 回開催し、本市発の取り組みを実践することができた。

5 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

1 年 8 か月足らずの事業期間でエデュケーショナルツーリズム等の新しいコンセプトの交流事業を実践し、その成果を「数」で捉えず、「どんな背景（スキル、ネットワーク、マインド）の人が来たか」という質で捉え、将来の定住人口増につなげられるという仮説の実証をしなければならないため、事業主体のスタッフと市担当の協議を頻繁に実施することで連携強化と情報共有に努めている。

6 今後の展開と課題

平成 22 年度は、前年度事業に加え地域不動産の仕組みづくり等、事業成果の達成と事業終了後の展開を視野に入れ民間継続手法の検討を行う必要がある。



予算関連データ

総額 ①～⑤の計		財源内訳（財源区分：①～⑤）				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
36,162 千円		0 千円	36,162 千円	0 千円	0 千円	0 千円
①～④の名称、 所管など	名称		福岡県ふるさと雇用再生 特別基金事業補助金			/
	所管		労働政策課			
	金額		36,162 千円			
	補助率		10/10			

提供可能資料：業務委託契約に係る仕様書・工程表、市広報掲載記事